

中間報告書

令和4年9月15日現在

1 事業名 高校生と地域をつなぐ放課後のキャリア探究

2 実施期間 令和4年4月18日～令和5年2月28日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

高校生が多様な他者に出会い、将来の可能性を広げる。放課後の時間を活用し、自分の関心分野について探究したり、自己理解を深める学習を行い、生徒が自分の理想的な将来を追求できる進路実現を目指す。

② 事業の流れ・進捗状況等

<実施したこと>

鴨方高校「放課後カフェ」

ねらい 生徒の自己理解の促進

実施日 6月15日、7月15日、9月7日

実施時間 1.5時間程度

運営者の構成 大学生2名、大人2～3名

進め方

- ① 学校と協議を行い、学校や生徒にとって必要な機会や在り方について共有
- ② プログラム開発・企画準備
- ③ 6月15日にパイロット版を実施
- ④ パイロット版を経て、新たに仮説を生成。プログラムを修正
- ⑤ 7月15日回より修正したプログラム（詳細下記）を開始

鴨方高校 放課後カフェ
@情報メディア教室
7月15日(金)13:30-14:30

**突然ですが
占ってもいいですか？**

あなたのこと教えてください！
将来に役立つ話が聞けるかも？

進行役
あやめちゃん
スタッフが
しがくさん
スタッフが
まいごさん

内容
ゲーム
質問
タイム
おしゃべり
タイム

当日参加可能！ふらっとのぞいてみてね♪
※テレビの取材ではありません。

鴨方高校 放課後カフェ
@情報メディア教室

今後のスケジュール

9月～12月 毎月7日に開催します！
放課後1時間程度
いろんな職業の大人の参加あります！
これからの人生に役立つ話が聞けるかも？

9月7日(水)のゲスト
橋本牧さん
岡山理科大学 教育学部
初等教育学科

進行役
あやめちゃん
スタッフが
しがくさん
スタッフが
かおりさん
スタッフが
まいごさん

内容
ゲーム
質問
タイム
おしゃべり
タイム

当日参加可能！ふらっとのぞいてみてね♪

内容

高校生は自己分析ツールを使用し、客観的に自分のパーソナリティを知ったうえで、大学生や社会人と対話を行う。対話では、「診断ツールの結果では〇〇だけど、実際どう？」などの問いかけを大学生や社会人スタッフが行いながら、高校生が自己理解を深めるプロセスに伴走する。

矢掛高校「careerlab」

ねらい 生徒の社会理解の促進

実施日 7月29日

実施時間 1.5時間程度

運営者の構成 大学生1名、大人2名

進め方

- ① 学校と協議を行い、学校や生徒にとって必要な機会や在り方について共有
- ② プログラム開発・企画準備
- ③ 7月29日にパイロット版を実施
- ④ パイロット版をきっかけに生徒側から「実際にゲストの現場に見学に行きたい」との申し出があり8月に企画を計画するも、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。
- ⑤ 9月以降の回に招聘するゲストへの依頼を開始



内容

高校生は最初にゲスト社会人の話を聞き、用意されたいくつかの問いの中から質問を行う。その後、高校生あるいはゲストからの自由な問いかけによって、共有された話（仕事や社会について）をさらに深めていく。

生き方百科

ねらい

閲覧者（主に中学生～大学生の若者）が多様な生き方を知り、視野を広げたり、ロールモデルを見つける

進め方

- ① 編集チーム（ライターなど）を組織
- ② インタビュアーを希望する大学生を募集
- ③ より効率的に記事がアップできるよう取材工程を整理
- ④ 「放課後カフェ」「career lab」に参加する大人に取材依頼を開始

進捗

公開済み 1人

取材済み 2人

取材予定 2人

<今後、実施すること>

鴨方高校「放課後カフェ」

実施日 10月7日、11月7日、12月7日、1月・2月は日時未定

方針

10月については、7・9月同様に大学生や大人とのコミュニケーションを通じての自己理解促進の場として開いていく。

11月以降は、進路の探索・探究性をテーマに、社会人から仕事やキャリアについて話を聞くなど、自分の外の世界（社会）と自己との関係性（職業適性や大切にしたい仕事観など）について理解を深めていく場を検討・実施する。

矢掛高校「careerlab」

実施日 9月21日、9月28日、10月19日、11月2日、11月30日、12月21日、
1月18日、1月25日、2月15日

方針

自分が関心のある分野を探究する機会として継続的に場を開いていく。Careerlabでの探究後、さらなる探究行動の受け皿をどのようにつくっていくか、その設計可能性も合わせて検討していく。

生き方百科

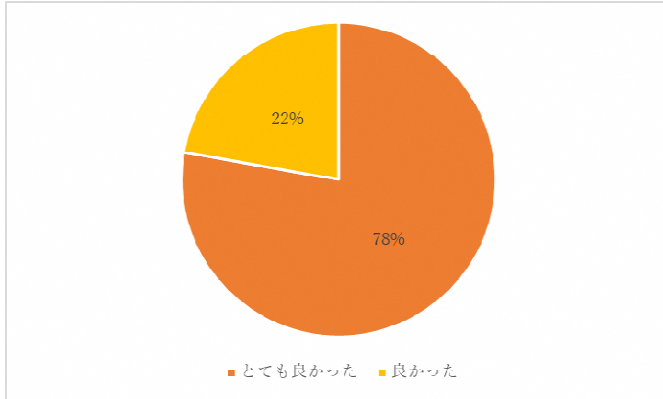
方針

- ・「放課後カフェ」「career lab」に参加する大人に順次取材を行っていく
- ・公開記事数は計画通り20人を予定
- ・アーカイブされた大人に対して、学校教員が講演依頼や探究学習での協力依頼などができるようにシステムを整備する

- ③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み

鴨方高校「放課後カフェ」

参加者：18人

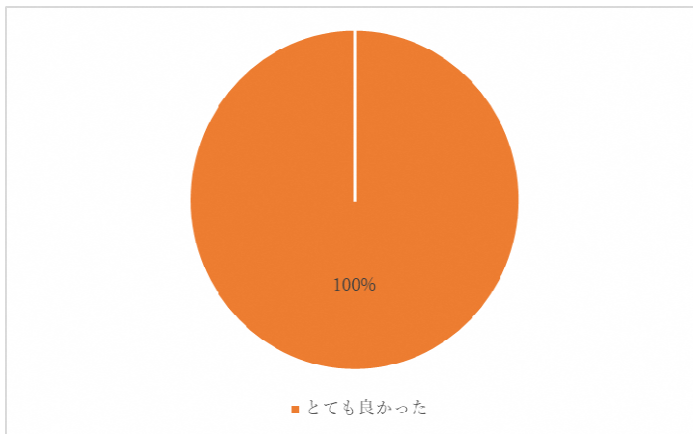


意識変化・行動変容

- ・客観的な評価や他者からのフィードバック、問いかけによる省察によって自己理解が進んでいる
- ・自己理解が進んだ結果、進路の探索についても前向きになり、自分から職業適性について調べる行動もあった

矢掛高校「careerlab」

参加者：8人



意識変化・行動変容

Output	気づき・意識変化	Next Action(行動変容の種)
異なる価値観や見方との出会い	勉強など普段自分の生活で触れるモノ・コトの見方を変える(多角的に捉える) ゲストの活動内容や分野について理解を深める	勉強頑張る まちづくり(ゲストの活動分野)について知りたい
ゲストのキャリアの追体験	進路の決め方のヒントを得る	多くのことを知り、視野を広げる
同地域に住む人で挑戦している人との出会い	同地域に住む人で挑戦している人を知ることを知る	自分の町のために何か役に立ちたい

事業終了後の成果・効果として設計したい評価軸

- ① 自己理解の促進：新たな自分の発見や自分の特性の理解
- ② 社会理解の促進：自分の関心分野についての理解度向上
- ③ キャリア観の育成：（待遇や勤務地以外で）自分が大切にしたい軸の発見
- ④ 地域の解像度向上：地域にある問題や仕事を詳しく知り、興味喚起

④ 課題等

主に下記 2 点について、他の方策もあるのではないかと思案中なので課題として列挙したい。

● 持続性

持続可能な手段は何か。現状仮説では、必要タスクを整理してプログラム化することで、（属人化を超えて）そのノウハウを各学校に所属するコーディネーターが活用できるものとする「コーディネーター業務の一環」路線で進める。

● 拡大性

こうした機会がどの範囲（校種や学科など）まで必要なものとして設計していくのか。現状では、総合学科志向をもつ高校にセグメントして考えていく想定。

4 参考事項・資料

収支精算書見込、写真

参考事項：補助金交付申請時

今年度の 成果目標 と評価指 標	成果目標 1 高校生社会理解を進め、生き方や働き方に関する知見を深める			
	評価指標・測定方法	数値目標		
		現状	今年度	(参考)
	振り返り時、自分が獲得した新たな知見を具体的に文章で書ける	—	90%	R5年度の目標は、R4年度の調査(事業評価)をもとに設計する。
	成果目標 2 高校生暫定的な目標設定につながる自分の問いをもつことができる			
	評価指標・測定方法	数値目標		
		現状	今年度	(参考)
	振り返り時、自分がこれから考えたい問いを文章で書ける	—	80%	同上
	成果目標 3 高校生異なる他者と関わる力が身につく			
	評価指標・測定方法	数値目標		
現状		今年度	(参考)	
「相手の考えや意見を聴き、理解しようとしている」「自分の考えや気持ちを整理して伝えようとしている」の肯定的回答率(調査結果で測定)	—	80%	同上	



放課後カフェ



career lab